

1

札幌市の都市づくり

札幌市都市計画マスタープランって何？

札幌市では、より良いまちをつくっていくために、図のように段階的に計画を立てています。

そのうち、暮らしやすいまちにするための仕組みやその使い方などについて、今後の目標をまとめたものが「札幌市都市計画マスタープラン」です。



これまでの都市づくりは・・・

札幌市の都市づくりは、時代変化に合わせて、次のように進めてきました。

開拓期～戦後

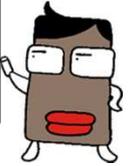
- ・都市の骨格づくり

政令市移行後

- ・計画的な市街地づくり
- ・良好な民間開発の誘導

現在

- ・新たな市街地拡大の抑制
- ・地域ごとのまちづくり等



現在の「札幌市都市計画マスタープラン」

理念 持続可能なコンパクト・シティへの再構築をともに進めよう

この理念を実現するために、計画のなかに下の図のような5つの都市づくりの力点を定めています。

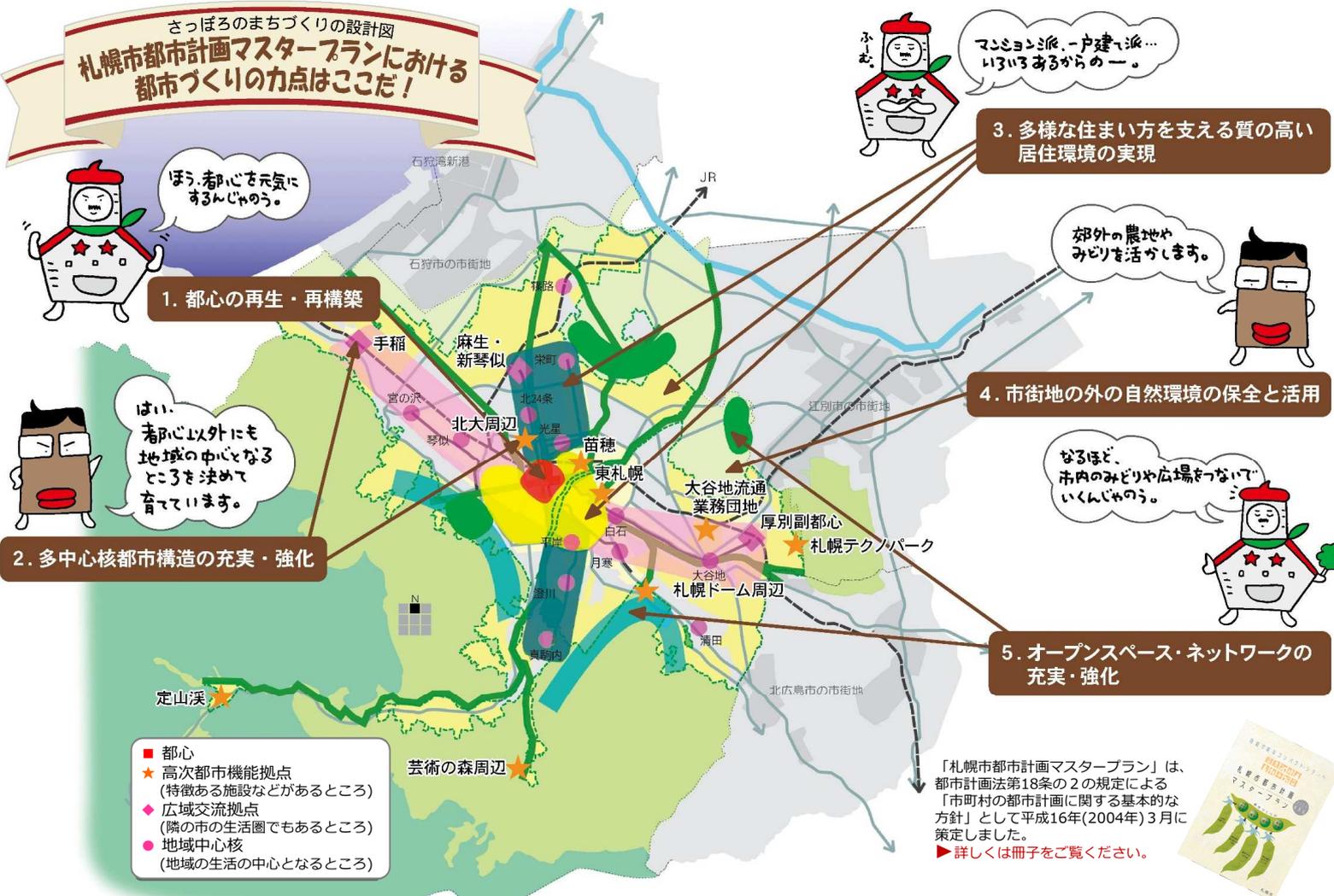
今のまちの範囲で

- ① 今あるものを生かしながら、より有効に使う。
- ② 郊外のみどりを減らさないようにしよう。

中身を充実しよう

- ③ みんなが使うところ(都心や地下鉄駅周辺など)は、市役所と市民のみならず育てよう。

コンパクト・シティとは？



2 これからの都市づくり

課題

これからの札幌市はどうなるの？

これからは人口が減り、高齢者が多くなることが予測されています。

人口が減る

高齢者が増える

高齢者になっても健康に安心して暮らせるのかな？

現在の札幌市の人口

2035年（20年後）には、

約194万人

3人に1人が65歳以上



小樽市（約13万人）に住む人がいなくなってしまうくらい、人口が減ることになります。



子どもや働く人が少なくなります。

働く人が減るとまちの活気がなくなるし、まちを維持できなくなるのでは？



2035年（20年後）の人口
約182万人

自動車で移動する人が多くなっていますが、高齢化が進むと、車を運転できない人が増えていきます。

自動車依存率が高まっている

高齢になって車の運転ができない人が増えると、生活が不便になる

郊外などには、高齢者が多いよね。

車が運転できない高齢者が増えても、便利に暮らせるまちが必要だね！



ということは・・・高齢者になって車が運転できなくなって、生活が不便になる人が多くなるのでは？



二酸化炭素の排出量が増加しており、特に市民生活と関係が深いところからの排出が多くなっています。

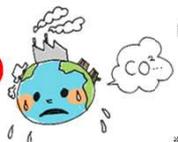
二酸化炭素排出量の増加

札幌市の二酸化炭素排出量

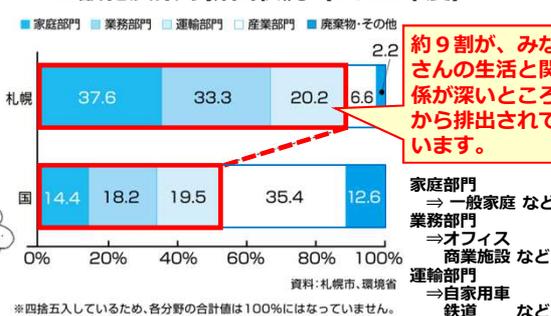
1,322万トン※2012年

（二酸化炭素1トン

=直径10mの球）



二酸化炭素の排出状況（2012年度）



約9割が、みなさんの生活と関係が深いところから排出されています。

家庭部門 ⇒ 一般家庭 など
業務部門 ⇒ オフィス 商業施設 など
運輸部門 ⇒ 自家用車 鉄道 など

寒い冬の暖房でたくさんエネルギーを使っているよね。

このままだと、地球環境のバランスが崩れて、生き物が生きていけなくなってしまうかも！



古い建物や道路などが多くなり、災害時など、安全に暮らせるまちを守ることができません。

建物や道路などが古くなっている

災害が発生した時に、

被害が大きくなる可能性があります

古い建物や道路を全部新しくすればいいのでは？

今ある建物などを大事に使ったり、これからつくるものを長く使えるようにすることが大事だね！



でもそのお金はどこから出せばいいのかな？



3 これからの都市づくり

基本方針

新しい「札幌市都市計画マスタープラン」をつくります！

札幌市の都市づくりに関わる課題を解決し、また、まちの魅力や活力をさらに高めていくため、都市づくりの理念をこのように考えました。



現在の札幌市都市計画マスタープランの理念

持続可能なコンパクト・シティへの再構築

現在のまちづくり戦略ビジョンの都市空間創造のコンセプト

S・L・I・M City Sapporo

Sustainability(持続可能性)

Livable(安心・快適で質の高い生活)

Innovation(創造性の発揮)

Managing(エネルギーやモビリティなど多様なマネジメント)

これからの都市づくりにかかわる重要なキーワード「E」

Ecology(自然環境)、Energy(活力)

Environment(環境)

Existing(既存)、Economy(経済)

Everyone(誰もが・すべての人)

Es

新しい都市計画マスタープランの理念

進める 踏まえる 加える

誰もが笑顔で生き活きと暮らせるまち

～ S・M・I・L・Es City Sapporo (スマイルズ・シティ・サッポロ) ～



理念を実現するため、これからはこんな都市を目指していきます！

世界都市

まちの魅力や活力をつくり出し、いろいろな人が満足できる良いサービスを提供できて、国内、海外といろいろなつながりを持つまち



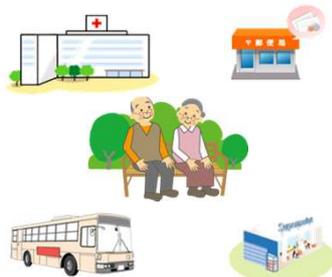
地域の歴史や特徴を大事にしよう！



地域にあった方法で、作戦を立ててまちをつくろう！

コンパクトな都市

地下鉄駅の周辺などに、住宅や生活を支える様々な生活利便施設・公共施設などを集めた、誰もが移動しやすく暮らしやすいまち



札幌らしいライフスタイルが実現できる都市

自然が多くゆとりある環境の郊外での暮らしや、都心部や地下鉄駅周辺等の便利な暮らしなど、いろいろな暮らし方が選択できるまち



地域の特色を活かしてまちの魅力と活力を高めよう！

建物等をつくることと使い方の両方をうまく考えよう！



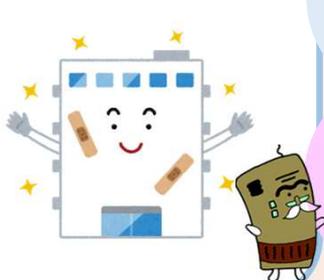
低炭素都市

地下鉄やバスなどの公共交通を中心としたまちづくりを進め、環境にやさしいエネルギーを最大限に利用できる仕組みをつくり、環境への負担が少ないまち



安全・安心な都市

建物や道路、上下水道などの点検や管理をきちんと行って、災害時にも市民の生活に必要なサービスなどを提供できる安心して暮らせるまち



様々な暮らしや交流がよりよく行える場をつくろう！

様々な問題をみんなで協力して考えて、作戦を立てて取組もう！

多様な協働

市民・企業・行政が協働し、交通・防災・観光などいろいろな分野が連携して、地域のよい取組がどんどんひろがっていくまち



1 土地利用①

これからの都市づくり
部門別取組



札幌市の土地利用の基本的な考え方

今後人口が減っていくことを踏まえて、**新たな市街地の拡大はせずに、現在の市街地の範囲を基本とし、市街地の中を充実させます。**

- ✓ 地下鉄駅周辺などの便利な場所は、**商業・公共施設や共同住宅などを集積し、その周りの住宅地の密度を維持、または高めることを基本とします。**
- ✓ 日常生活の**基礎となる生活利便施設や公共施設などは、市街地内の身近なところで利用できる**ようにすることを基本とします。

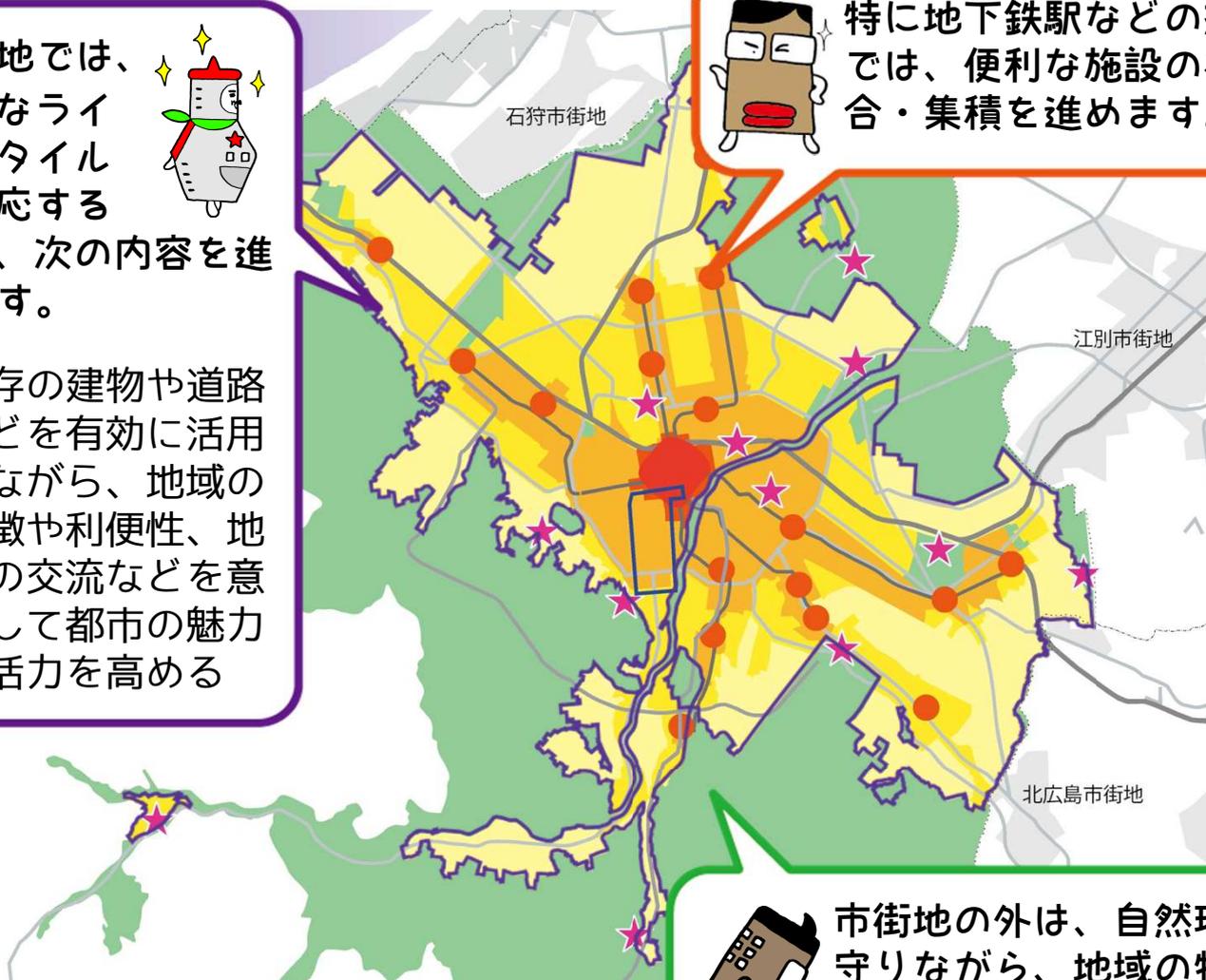
市街地では、
様々なライフスタイル
に対応するため、次の内容を進めます。



- ✓ 既存の建物や道路などを有効に活用しながら、地域の**特徴や利便性、地域の交流などを意識して都市の魅力や活力を高める**



特に地下鉄駅などの拠点では、**便利な施設の複合・集積を進めます。**



複合型高度利用市街地
 (共同住宅が多く、便利に暮らせる市街地)
 一般住宅地
 (多様な住まいができる住宅地)
 郊外住宅地
 (戸建て住宅が多く、良好な環境で暮らせる住宅地)

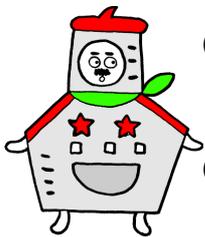
都心
 地域交流拠点
 (地下鉄やJRの駅などの周り)
 高次機能交流拠点
 (札幌の産業や観光などの拠点)



市街地の外は、**自然環境を守りながら、地域の特性を活かした土地利用のあり方を考えます。**



市街地の土地利用について



- 道路、上下水道などの生活基盤、学校、公園などの施設の配置や整備状況、自然環境との関係などを踏まえて土地を活用します。
- 日常生活に必要なサービスを受けられる環境を整えて、市街地の魅力や活力を向上します。

一般住宅地 (中～低密度な住宅地)

- ・戸建、共同住宅などの多様な住まいと一定の利便性がある環境、地域の特性と調和した暮らしやすい環境が整った住宅地にしていきます。



都心

- ・国内外の企業が活発に事業を行う魅力あるビジネス環境にしていきます。
- ・魅力と快適性を兼ね備えた都心らしい生活環境を整えます。

拠点

- ・市民の生活やいろいろな交流を支える施設等を集積します。
- ・誰もが安心・快適・活発に過ごせる場とし、魅力と活力を高めます。
- ・都市の低炭素化を先導する拠点づくりを検討します。

地域交流拠点：公共施設や商業・業務・医療などの施設を集め、身近に利用することができるよう、共同住宅との複合化を促進します。

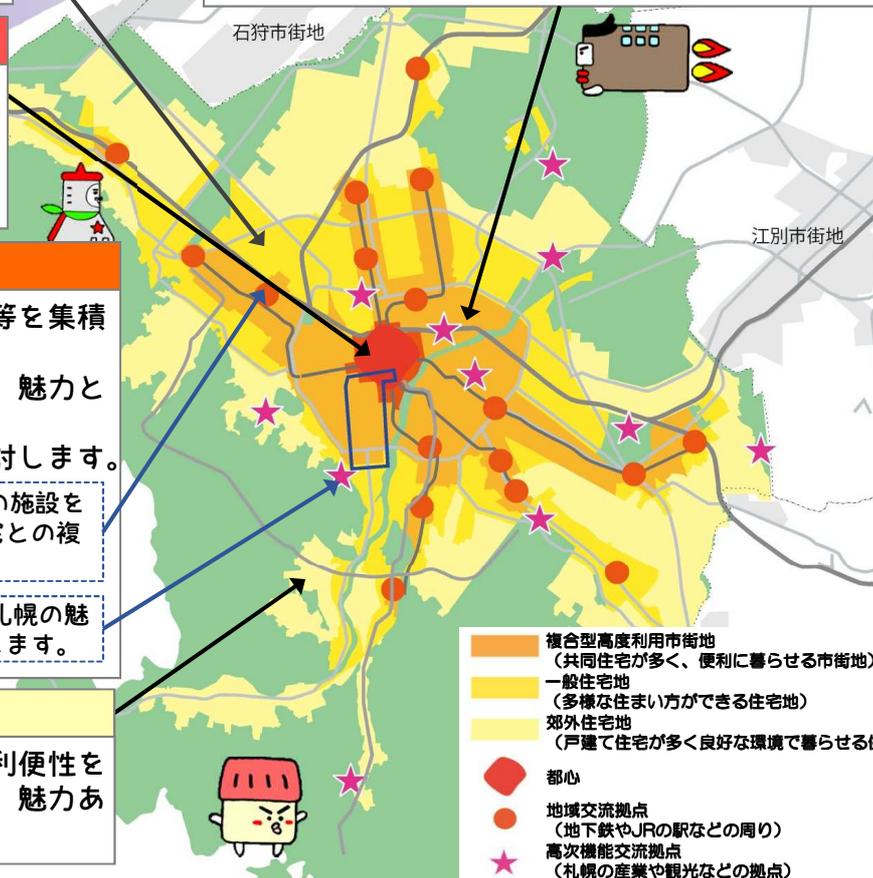
高次機能交流拠点：産業、観光、文化芸術など、札幌の魅力と活力の向上を先導する施設などの集積を目指します。

郊外住宅地 (低密度な住宅地)

- ・戸建住宅を中心として、必要に応じて生活利便性を確保しながら、地域のつながりが長く続く、魅力ある住宅地にしていきます。

複合型高度利用市街地 (高密度な住宅地)

- ・利便性が高い暮らしや歩く環境を大事にして、共同住宅や生活に必要な施設(店舗など)が集まり、美しい街並みを形成するなど、魅力があり暮らしやすい市街地にしていきます。



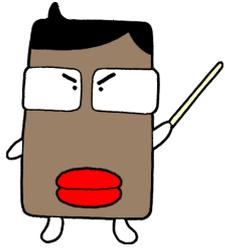
市街地の外の土地利用について

- 森林・農地などに囲まれている自然環境を活かし、都市の個性を伸ばします。
- 良好な自然環境を維持・保全・創出します。
- 様々なニーズに対応した土地の使い方の運用を検討します。
- 高次機能交流拠点の機能や魅力を向上させるため、景観にも配慮した周辺の土地利用のあり方を検討します。





札幌市の交通ネットワークについて



- 地下鉄やバスなどの公共交通を効果的に運営し、拠点まで移動しやすく、交通機関のつながりや利用しやすさなどを高めます。
- 骨格となる道路について、既存の道路を有効に活用しながら機能を強化し、周辺都市や市内の各拠点へ行きやすくなるように道路のネットワークを構成します。
- 周辺都市などと連携し、空港・港湾やそれらへのアクセスのほか、鉄道・高速道路、主要幹線道路など**広域の交通機能を充実・強化**します。
- 高齢化などに対し、**地域の特徴にあわせた交通のあり方**を検討します。

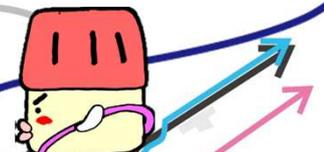
公共交通ネットワーク

- ・地下鉄・JRを基本とし、バス路線を各駅につなげ、都心等へ向かう交通を集中させます。
- ・公共交通ネットワークを活用し、各拠点への行きやすさを高めます。
- ・各交通機関が連携し、乗継しやすさの維持・改善、利便性の向上など、公共交通の利用しやすさを高めます。



道路ネットワーク

- ・今ある道路を有効に活用して利用しやすくします。
- ・駐車場の集約や、既存駐車場の有効活用について検討します。
- ・自転車を利用しやすい環境に改善します。



地域特性に応じた交通体系の構築

- ・市民、企業、行政等が考え方を理解しあって交通体系のあり方を検討します。
- ・安全で快適な歩く環境をつくり、公共交通の乗継しやすさを高める方法などを検討します。
- ・特に、高齢化、人口減少が進む地域の交通のあり方を検討します。



広域的な交通ネットワーク

- ・広域交通ネットワークの構築を目指し、都心から高速道路へのアクセス向上に向けた取組などの検討を進めます。



- 地下鉄
- JR
- 路面電車
- 道路
- 高速自動車道路

4 エネルギー

これからの都市づくり
部門別取組



- 「環境首都・札幌」を目指し、エネルギーの利用を減らし、再生可能なエネルギーを活用するなど、低炭素社会の実現に向けた取り組みを進めます。
- 建物などの整備・更新の際に省エネルギーの建物を多くするなどして、二酸化炭素の削減を進めます。
- 環境にやさしい様々なエネルギーの効果的な供給による低炭素社会の実現とともに、災害時にまちが維持できる仕組みをつくります。

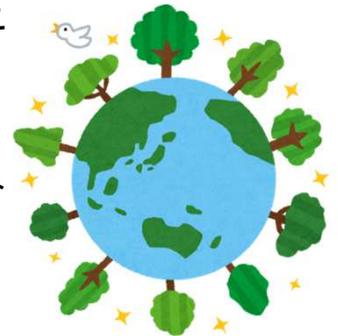
再生可能エネルギーの活用

- ・太陽光発電をはじめとした様々な再生可能エネルギーを取り入れ、広げていきます。
- ・廃棄物をエネルギーとして有効に活用します。
- ・北海道の再生可能なエネルギーの利用を進めていきます。

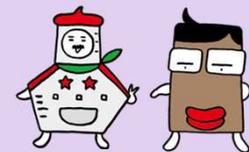


効率的なエネルギーの地域での利用の推進

- ・都心部を中心に、エネルギーネットワークを強化し、低炭素化を進めます。
- ・地域交流拠点のエネルギーネットワークを整備し、充実させていくことについて検討します。



5 その他の都市施設



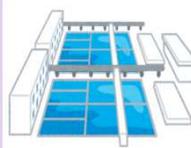
河川

- ・河川の改修、流域貯留施設の整備などにより、川の安全性を高めます。
- ・自然環境などに配慮した河川整備を行い、より良い水辺空間をつくり、守ります。
- ・市民に河川を愛し、大切にすることを意識をもってもらえるように働きかけます。



上水道

- ・次の世代にも安定して水を届けるため、施設の計画的かつ効率的な整備と更新を進めます。
- ・施設の耐震化や緊急時の飲料水確保など、災害に強い水道を整備します。
- ・標高差による水圧を利用した水力発電設備の導入など、環境に配慮した事業を進めます。



下水道

- ・社会状況の変化に応じて、施設の機能の維持や計画的な改築を行います。
- ・浸水や地震などの災害に強い下水道を整備します。
- ・下水道の熱エネルギーや下水道施設を活用した雪対策など、下水道の持つ資産・資源を有効に活用します。



廃棄物処理施設

- ・循環型社会をつくるため、様々な取組を組み合わせる効果的に進めます。
- ・廃棄物の発生・排出抑制やリサイクルの推進などにより、廃棄物を減量します。
- ・ゴミが燃える際の熱エネルギーを効率的に回収し、発電や熱供給に利用します。

5 これからの都市づくり

総合的取組

新しい「札幌市都市計画マスタープラン」の理念、目指す都市の姿を実現するため、例えばこんなことを行っていきます。

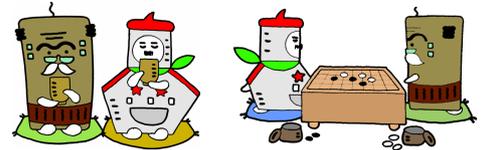
1 経済成長と環境にやさしい都市の実現を先導する都心

- 国内・海外の企業の拠点となるレベルの高いビジネス環境にしていきます。
- 観光客がたくさん訪れ、多くの国際会議や展示会が行われる魅力のある都市観光を充実していきます。
- 歩きやすい環境や住む・働く環境を整え、みんなが集うにぎわいのある場をつくり、快適な都心にしていきます。
- 環境に配慮した建物や高い自立性を備えたエネルギーネットワークの整備により、環境にやさしく、災害にも強い都心にしていきます。
- 都心の発展を支えるまちづくりの体制をつくりまします。



2 様々な交流を行う環境が整った地下鉄駅周辺などの拠点

- 拠点の特徴を活かし、地域の状況にあわせて施設等の誘導や地区の開発などを行います。
- 周辺地域と拠点間の移動しやすい環境や、冬でも快適に歩ける環境づくりを進めます。
- 広場など、様々な交流を行うための場をつくっていきます。



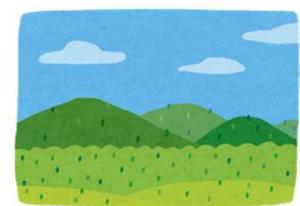
3 様々な暮らし方ができる魅力ある市街地

- 地下鉄沿線などでは共同住宅などの住まいや歩きやすい環境などをつくり、多くの人々が住みやすい市街地にしていきます。
- 路面電車の沿線などの魅力を高めるために、景観まちづくりを進めます。



5 自然環境を守りながら魅力を高める市街地の外

- 森林や農地などの環境を守り、充実させます。
- 高次機能交流拠点の機能や魅力を高めるため、景観にも配慮した周辺の土地利用のあり方を考えます。



※オープンスペース・ネットワークの考え方については、地域特性に応じて、都心・拠点・住宅地・調整区域等において引き続き踏襲していく

4 地域の特徴にあった暮らしやすい環境が整った住宅地

- 小学校にいろいろなサービス機能を集めて地域の交流や生活の拠点づくりを進め、地域コミュニティを活性化させます。
- 身近な場所に店舗などが立地し、暮らしやすい環境を維持していきます。
- 地域が持つ資源などを活かして地域の魅力を高めます。



凡例

●●●●● 地下鉄と地下鉄駅

—●— JRとJR駅

--- 路面電車

— 高速道路

— 札幌市の骨格となる道路

■ 都心

● 地域交流拠点 (地下鉄やJRの駅などの周り)

● 高次機能交流拠点 (札幌の産業や観光などの拠点)

■ 複合型高度利用市街地 (共同住宅が多く、便利に暮らせる市街地)

■ 一般住宅地 (多様な住まい方ができる住宅地)

■ 郊外住宅地 (戸建て住宅が多く良好な環境で暮らせる住宅地)

■ 工業地

6

立地適正化計画 概要と現状

札幌市では、これから人口が減り、高齢者が多くなっていきます。その中でも、誰もが暮らしやすいまちにしていくための取組として、「立地適正化計画」をつくります。

立地適正化計画って何？

まち全体を見て、住宅や医療・福祉・商業・行政等の施設をより利用しやすい場所に誘導したり、公共交通をより使いやすくするための方法を記載した計画です。

安心して快適に暮らせるまちを、将来もずっと維持していくため、これからのまちの姿を見直していく必要があるね。

キーワードは、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」だよ！

立地適正化計画のイメージ

立地適正化計画区域

この計画で対象とする区域

居住誘導区域

居住を誘導する区域

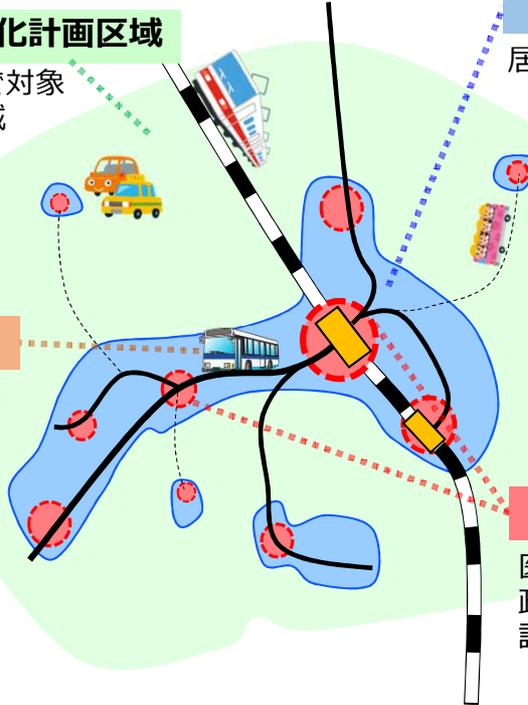
区域外で住宅などを建てる時には、届け出が必要な場合があるよ。

公共交通

便利な地域（都市機能誘導区域）に行きやすくする公共交通の施設の整備

都市機能誘導区域

医療、福祉、商業、行政等の生活に必要な施設を誘導する区域



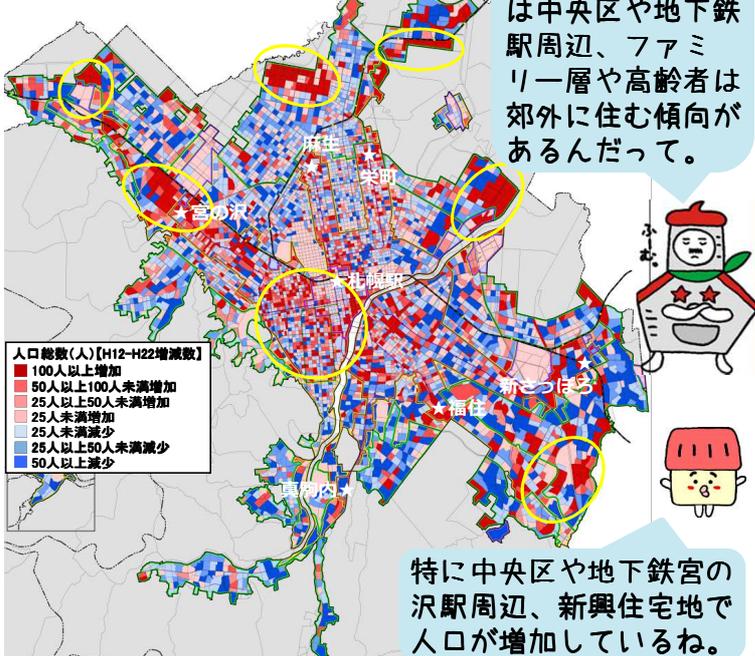
札幌市の人口の動きについて、詳しく見てみよう。

これまでの人口の動き

ポイント1

年齢や家族構成によって、住む場所の選び方に違いがあります。

平成12年から平成22年までの人口総数増減数（条丁目ごと）

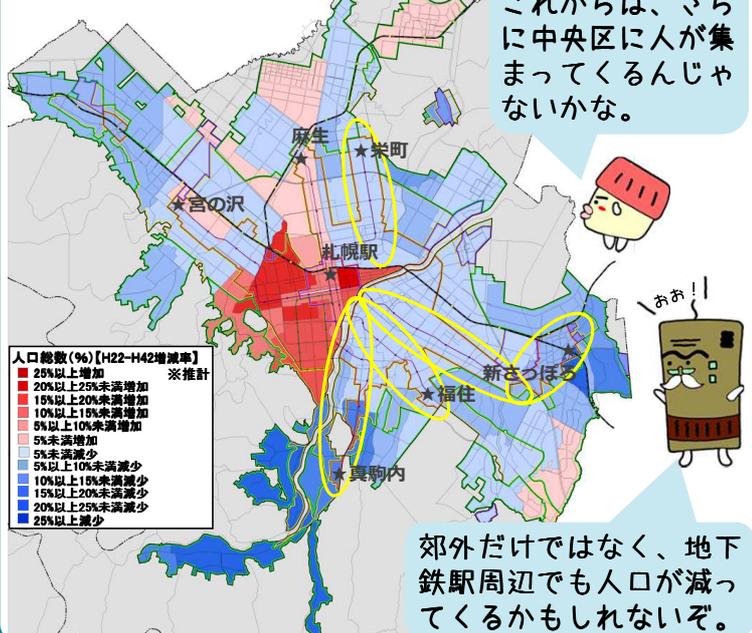


これからの人口の動き

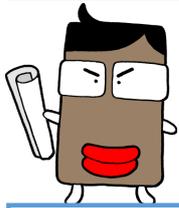
ポイント2

地下鉄駅周辺などの便利な地域でも、人口が減少していく可能性があります。

平成22年から平成42年までの人口総数増減率（まちづくりセンターエリアごと）



居住誘導区域（集合型の居住機能が集積する区域）



- **中心部（地下鉄駅周辺などの交通利便性の高い地域）**は、人口密度を維持、または高めるため、土地を十分に活用し、集合住宅などが多くなるように「**居住誘導区域**」とすることを考えます。

なぜ、中心部（地下鉄駅周辺などの交通利便性の高い地域）を「居住誘導区域」とするのですか？

- ・世代や家族構成によって住む場所の選び方に違いがあり、**中心部は住む場所としての需要が高くなっています。**
- ・地下鉄駅周辺などでこれから人口が減少していくと、現在建っている店舗や病院などが撤退することも考えられ、その周辺の広い範囲の住宅地に住む人も生活が不便になっていくかもしれません。そのため、**人口密度を維持、または高める取組が必要な地域**もあります。
- ・中心部にもまだ十分に活用されていない土地があり、また、建て替え時期の建物などもあるため、**集合住宅などを増やすことができる可能性**があります。

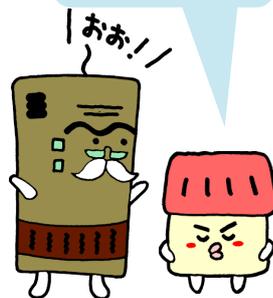
（仮称）居住ストック活用区域

※札幌市独自の区域

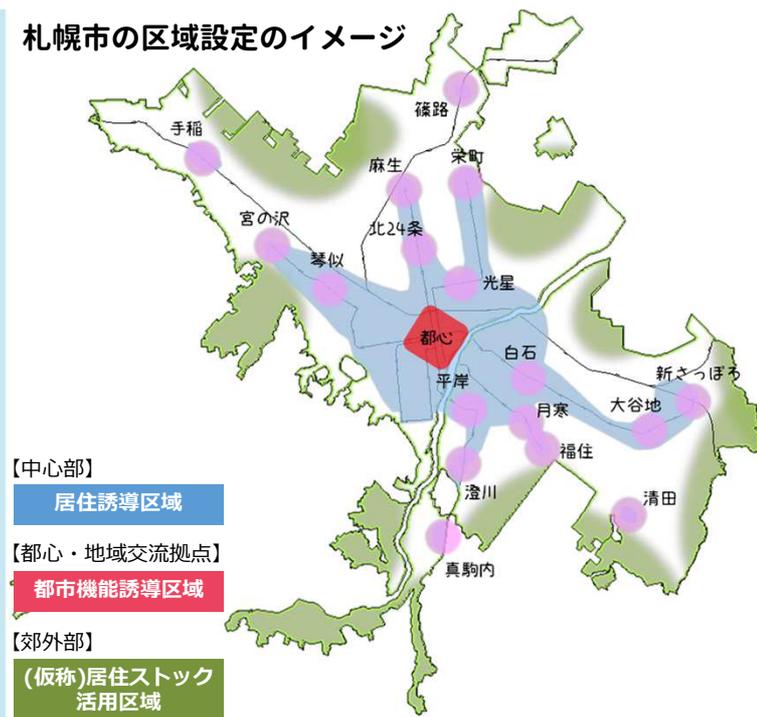
- **郊外部の住宅地は、「（仮称）居住ストック活用区域」とすることを考えます。**

- **生活や交通の利便性を確保しながら、地域のつながりを強くし、住宅地の魅力を高める取組を進めます。**

郊外も大事にするんだね。



札幌市の区域設定のイメージ



【中心部】

居住誘導区域

【都心・地域交流拠点】

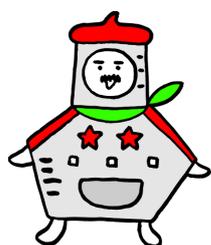
都市機能誘導区域

【郊外部】

（仮称）居住ストック活用区域

都市機能誘導区域（都市機能を集約する区域）

- **都心、地域交流拠点（地下鉄駅周辺など）**の2種類の「**都市機能誘導区域**」とすることを考えます。
- **誘導する施設は、下記のように考えます。**



区域	誘導施設の想定
都心	・国際競争力を高める施設（コンベンションセンター、高機能オフィス等）、省エネルギー関連施設（地域熱供給システム等）、教育文化施設、多くの市民が利用する公共施設（図書館、体育館等）
地域交流拠点	・多くの市民が利用する公共施設（図書館、体育館等）